

# テイル形文の使用と解釈における状況的要因

土岐留美江

日本語教育講座

## Pragmatic Factors behind the Use and Interpretation of -teiru Sentences in Modern Japanese

Rumie TOKI

Department of Teaching Japanese as a Foreign Language, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

### ABSTRACT

The Japanese future tense is normally marked by -ru form. When the future event allows for an aspectual interpretation, -teiru form is also used.

Pragmatic factors influence the choice between the -ru form and -teiru form. The -ru form is used when the action is conducted in accordance with the speaker's outlook, while the -teiru form is used to suit the hearer's perspective. In the choice between the two forms, pragmatic factors are sometimes found to be more influential than grammatical factors, e.g. the presence of a continuous aspect marker "zutto".

It is also found that women tend to pay more attention to pragmatic factors than men.

### 1. はじめに—問題の所在—

現代日本語のテイル形は、タ形およびル形との対立関係において非過去・不完成相を表すとされる。一般に、動作・変化動詞にテイル形が付加した文の時制意味は現在時とされるが、未来時を表す場合もある。例えば工藤（1995）では、テイル形は具体的・アクチュアルな事柄を表す場合の継続相とパーフェクト相において、現在時と未来時の双方に跨ることが示されている。（p.161, 網掛けは土岐による。以下同様。）

	具体的・アクチュアル			抽象的・ポテンシャル	
	完成性	継続性	パーフェクト性	反復性	
未来	スル	シテイル	シテイル	(/)	スル
現在	/	シテイル	シテイル	シタ	シテイル スル
過去	シタ	シテイタ	シテイタ	シテイタ	シタ

ところが、テイル形文の表す時制意味について、山岡（2000）は文機能や発話機能の観点から、以下のような見解を示す<sup>1</sup>。

「僕はずっと君のことを待っているよ」のような文は、通常、時制意味は現在と解釈され、文機能も発話時の自分の状態を描写した〈状態描写〉と考えるのが妥当で、この種の文が意志表出<sup>2</sup>と解釈されるためには、現在の状態が当事者にとっては自明であるために時制意味が未来に限定され

るといった、語用論的条件の充足によってはじめて、《意志表出》の発話機能が発生すると考えた（p.91）

しかし、「僕はずっと君のことを待っているよ」という文は、通常、発話者の未来の行動の予定を聞き手に告げたものであると解釈され、発話時現在の状況を描写したものと考えるににくい。この例文に関して、特別な語用論的条件を課さない場合の文としての時制意味に、未来時を排除することは、母語話者としての筆者の直感に従えば不可能であるように思う<sup>3</sup>。

数名の言語学者や大学生に上記の例文を示して解釈を尋ねたところ、回答には男女で異なる興味深い傾向が見られた。男性は現在時の解釈と未来時の解釈とで迷う傾向が見られたのに対し、女性は迷わず未来時の解釈を支持する者が多かったのである。この反応の相違は何に起因するものなのか。

現代日本語のテイル形は高度に文法化したアスペクト接辞であり、聞き手により文の意味解釈に大きく揺れがあるとは考え難い。しかし、上述の事実は「僕はずっと君のことを待っているよ」といったごく単純な例文の解釈をめぐる、現実にはコミュニケーション上のトラブルが発生しかねない程の揺れが存在する可能性を示唆している。

テイル形文における時制意味の解釈のように、文法的に適正な一つの文に複数の意味解釈が可能な場合、

どのような状況のもとで最終的にある一つの意味が確定されるのかという問題は、まだ十分明らかにされていない。テイル形文の解釈と使用には、これまで注目されることのなかった、聞き手（発話者）の性別に反映されるような、何らかの状況的要因が関与していることが考えられる。そして問題の例文をめぐる解釈の揺れは、単なる個人的な見解の相違ではなく、状況的要因の影響による構造的なものとして位置づけられる可能性がある。

本稿では、このような観点から、テイル形文の時制意味の確定、及びル形文との使い分けに際して影響を与えている状況的要因がどのようなものかを考察する。具体的には、以下の三点を論証していく。

1. 山岡2000で示されているテイル形文は、何も語用論的条件が示されない場合、通常、文の時制意味は未来と解釈される。また、どのような語用論的条件が示された場合も、未来時の解釈は相当の高率で支持される。換言すれば、テイル形が付加された場合、文としての時制意味は、述語の形態論的時制意味と同様に、現在、未来、超時の三種にわたると考える方が妥当である。
2. 問題のテイル形文の時制意味の解釈には、解答者の性別による微妙な揺れが存在する。一般に、男性と比較して女性の方が、テイル形文の解釈として現在時より未来時を支持する割合が高く、また、未来時を表す状況で、ル形文よりテイル形文を選択する割合が高い。
3. 未来時を表す場合、ル形文とテイル形文の使い分けには、ル形、テイル形それぞれのテンス・アスペクトの意味特徴からの拡張として説明出来る側面と、テンス・アスペクトの意味からは直接には説明出来ない側面がある。テンス・アスペクトの意味から直接に説明できない側面は、従来、あまり注目されることがなかったが、ル形文とテイル形文の選択率には、話し手と聞き手と事柄との関係や、話し手や聞き手の性別といった発話の状況的要因が、非常に大きな影響を与えている。

## 2. 分析方法と調査の概要

研究者の内省のみに頼る分析方法では、山岡2000と本稿筆者のように研究者間で意見の相違が存在する場合には、水掛け論に陥る可能性が高い。論証の方法として、より客観的なデータを示す必要があること、また、テイル形文の時制意味の解釈や使用意識に、発話状況や発話者（聞き手）の性別による相違があるかどうかを、より一般的な形で検証する必要があることを鑑み、アンケート記入方式による調査を行った。以下、そのデータを基に考察を行う。

被調査者は愛知教育大学学部学生、男性132名、女性173名、計305名（調査時期：2003年10月）である<sup>4</sup>。

アンケート用紙にあらかじめ回答を記載した上で、最もふさわしいものを選択してもらう選択式で行った。項目ごとの質問形式の詳細は以下の結果と分析の各々の箇所述べる。

アンケート調査はコーパス調査のような実態調査とは異なり、回答者の意識調査の意味合いを持ち、選択式アンケートの場合には、コーパス調査で最も出現数の多いものが高比率で選ばれやすく、更に、あらかじめ選択肢が示されている場合には、提示された順序が解答に影響する等の特徴があることが、杉村(2005)で指摘されている。以下、これらの点も考慮しつつ考察を進める。

なお、項目ごとに集計して割合を示したため、無回答の数により、有効な回答総計は項目ごとに異なる。

## 3. 時制意味と性別

### 3. 1. 場面状況を設定しない場合

まず、何も場面状況を設定しない場合に、「僕はずっと君のことを待っているよ」というテイル形文の時制意味の解釈に、発話者（聞き手）の性別による差異が現れるか否かを考察するために、以下のような設問を行った。

#### 【調査票：項目例1】

問 以下のようなことを「自分が言う」場合と「人から言われる」場合を想定してください。最も普通に考えられる意味に◎を、場合によってはあり得ると思う意味に○をつけて下さい。（何か気づいた点があればカッコ内を書いて下さい。）

A（男性のセリフ）「僕はずっと君のことを待っているよ」

（男性のみ回答して下さい）【自分が言う場合】

1. 今現在、君のことを待っている、と伝えている。これから先のことまで特別に約束しているわけではないので、将来は「待っていない」ことも、場合によってはあり得る。

2. これから先、君のことを待ち続けるという将来の約束をしている。将来「待っていない」ことは、言葉通りなら、あり得ないはずである。

（男女とも回答して下さい）【人に言われる場合】

（選択肢は同上。）

B（女性のセリフ）「私はずっとあなたのことを待っています」

（以下「男性」を「女性」に、「君」を「あなた」に換えてAと同様に「自分が言う場合」と「人に言われる場合」の設問を提示した。）

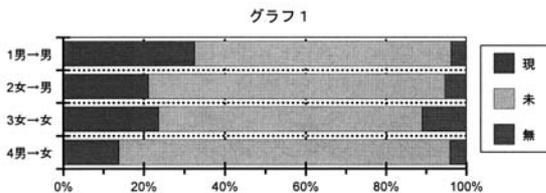
論が煩雑になるのを避けるため、以下では◎の回答のみを集計した結果を示し、考察を行う。

①聞き手としての解釈

表1及びグラフ1の「男→男」は男性のセリフを男性が解釈する場合、「女→男」は女性のセリフを男性が解釈する場合である。どの場合にも未来時が多数を占める。男女ごとの比較では、男性のセリフを男性で現在と解釈する人の割合が女性で現在と解釈する人のほぼ二倍に上り、約三人に一人の高率となっている。一方、女性のセリフでは、逆に男性より女性の方が現在と解釈する人の割合がやや高くなる。そして男女ともに、同性を想定するとき比べて異性の場合の方が、より未来の解釈が増える。すなわち、発話者が聞き手と同性か異性かによってテイル形文の解釈に微妙な揺れが生じている。

表1 聞き手としての解釈

	現	未	無
1 男→男	43	84	5
2 女→男	28	97	7
3 女→女	41	113	19
4 男→女	24	142	7

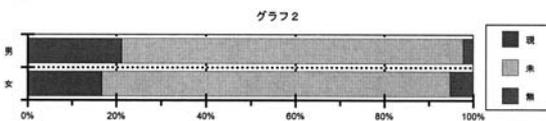


②発話者としての解釈

自分が発話者であると想定した場合の時制意味も、男女ともに圧倒的に未来時が多い。やはり男性の方が女性より現在と回答する者の割合が僅差で高くなっている。①の聞き手としての解釈の結果とも併せると、男性は女性より現在時の意味でテイル形文を発話し、他の男性の発話についても同様に現在時として解釈することが多いものの、女性の発話については逆に未来時として解釈するという、発話者の性別によって解釈を変える傾向が見られるが、女性はそのような傾向は男性ほど顕著ではないと言えよう。

表2 発話者としての解釈

	現	未	無
男	28	101	3
女	29	135	9



3. 2. 場面状況を設定した場合

次に時制解釈に影響することが予想される状況を設定した。5は最も未来（今後の行動の約束）と解釈されやすいと思われる場面であり、6は最も現在（発話

時の状況描写）と解釈されやすいと思われる場面である。そして7はどちらにも解釈できると思われる場面である。

【調査票：項目例2】

問 以下のような場面で、以下のように言われた場合、あなたならどのように理解しますか？最もよくあてはまるものに○をつけて下さい。

5 Aの恋人のBが、仕事で2年間、日本を離れることになった。

A：僕はずっと君のことを待っているよ。

1. 今現在、AはBのことを待っている最中である。

2. これから先、AはBのことを待ち続けることと約束している。

(以下、選択肢は6、7とも同様。)

6 Bが日本を離れて半年後、Aと電話で話している。

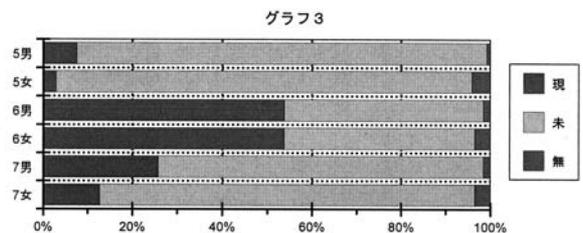
A：僕はずっと君のことを待っているよ。

7 Bが日本を離れて2年後、帰国予定が更に2年のびることになった。電話でそのことをAに告げると、

A：僕はずっと君のことを待っているよ。

表3 発話状況と時制意味の解釈

	現	未	無
5 男	10	121	1
5 女	5	161	7
6 男	71	59	2
6 女	93	74	6
7 男	34	96	2
7 女	22	145	6



5では男女ともに九割以上が未来の解釈を取っているが、6でも四割以上が未来を選択している点が注目される。また7に関してもかなりの高率で未来が選択されている。すなわち、問題の例文は、時制的に異なると思われる発話状況を設定した場合に、どのケースにおいても相当な高率で未来時と解釈されている。

また5及び7で、現在時の解釈を取る男性の割合は女性のおよそ倍、あるいはそれ以上である点が注目される。テイル形文の未来時の解釈に関して、聞き手の性別による微妙な差異は、やはり存在すると言えよう。

#### 4. 未来時を表すル形文とテイル形文

##### 4. 1. アスペクト的要因に従う場合

##### 4. 1. 1 当該の行為における発話者と聞き手の関係

問題のテイル形文は、どのような場面状況においても、現在時よりも未来時として解釈されることが支配的であることが確認されたが、通常、未来時における行為の予定の宣言は、動詞言い切りのル形文で表される。例えば、次のような場合にはテイル形文は不可能である。

A もう帰る？

B いや、これから大学に（行く／\*行っている）よ。

ル形文とテイル形文が、ともに未来時として解釈可能な場合は、次のように未来時における行為の継続か結果の状態が問題とされる場面である。

A 途中で郵便局に寄っていかなきゃいけないんだ。

B じゃあ、僕は先に（行く／行っている）よ。

この場合、テイル形文では、Aは未来時のある時点でBに追いついて合流するか、もしくはBが目的地に到着した後に合流するという前提があり、発話者と聞き手は未来のある時点で再び行動を共にする。つまり、行為の未来時におけるパーフェクト的解釈が成り立っている。

また、問題の「僕はずっと君のことを待っているよ」という例文では、動作の継続としての解釈と、結果の状態としての解釈の両方が可能であり、このように、継続か結果のどちらかの解釈が可能な場合に限り、テイル形文も未来の予定の表出として機能することが可能である。

一方、ル形文はある行為が行われることのみを表し、その結果の状態には関与しない。従って、AとBが発話時点で分かれた後、再び合流するかどうかは不明であり、そのまま別行動を取り続ける可能性もある。

このような、未来時を表すル形文とテイル形文の、アスペクト的意味特徴の差異に基づく発話状況との関係を検証するために、発話状況を操作した、以下のような設問を行った。以下、問の文章はすべて同様である。

##### 【調査票：項目例3】

問 以下のような場面で、あなたならどのように言いますか？最もよくあてはまるものに○をつけて下さい。

8 部屋にAとBがいて、Aは出かけようとしている。

A：じゃあ、行くね。

B：僕はずっと君のことを 待つ／待っている よ。

9 部屋でBとCがAを待っている。Cがあきらめて出かけようとする。

C：じゃあ、もう、僕は行くよ。

B：僕はずっとAのことを 待つ／待っている よ。

10 AとBと一緒に釣りをしようとAの別荘にやってきた。買い置きのお米がないことに気づいた。

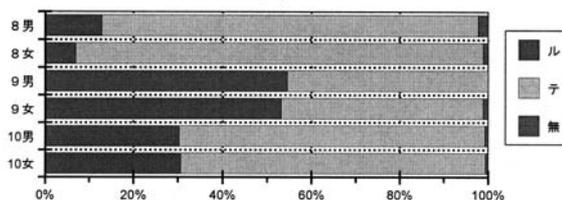
A：ごめん。ちょっと、お米買ってくるよ。一緒に来る？

B：僕はここで 待つ／待っている よ。

表4 発話者と聞き手の関係

	ル	テ	無
8男	17	112	3
8女	12	159	2
9男	72	60	0
9女	92	79	2
10男	40	91	1
10女	53	119	1

グラフ4



待つ対象が、8のように聞き手である場合はテイル形文が高く、9のように第三者である場合には逆にル形文の方が優勢になる。対象が聞き手である場合には、未来のある時点で発話者と聞き手は合流し、行動を共にすることになるが、9では聞き手Cに対して発話者Bは別行動をとることになる。すなわち、発話者が聞き手と別行動を取る場合にはル形文が選択されやすく、聞き手と行動を共にする場合にはテイル形文が選択されやすいという結果になっている。

10では、待つ対象は聞き手であるものの、聞き手とは異なる行動を取ることを表明することに焦点がある場合である。この場合は8と9のほぼ中間の数値を示す。

未来のある時点において、発話者と聞き手とが行動を共にするか別にするか、という場面状況の違いにより、ル形文とテイル形文の選択率は変化することが確認された。

##### 4. 1. 2 行為の既実現性と未実現性

更に、他の動詞述語のケースについても、当該の事態のアスペクト的状況要因とル形文及びテイル形文の選択率との関係を見る。次の11から16は、すべて未来のある時点で発話者と聞き手がともに行動することを前提としており、未来パーフェクト的解釈が成り立つ

ケースである。

【調査票：項目例4】

- 11 サークルのコンパで、A（後輩）は急用を思い出して、幹事のB（先輩）にしばらく席を外すことを伝える。  
 A：ちょっとすいません。また戻ってきます。  
 B：ああ、いいよ。9時までここで 飲む／飲んでいる から。
- 12 A：また、名古屋の方に来た時には、泊めてもらえる？  
 B：いいよ。大学卒業するまではここに 住む／住んでいる から。
- 13 A：明日の夜10時に、家に電話してもいい？  
 B：いいよ。10時までには家に 帰る／帰っている から。
- 14 AとBと一緒に美術展に行った。Bは気に入った絵の前から動こうとしない。  
 A：先に 行く／行っている よ。
- 15 AとBが予約したレストランでCを待っている。Cから電話がある。  
 C：ごめん。一時間ほど遅れるよ。  
 A：わかった。じゃあ、先に 食べる／食べている よ。
- 16 Aが家で一緒に夕食を食べようと、Bを待っている。Bから電話がある。  
 B：ごめん。一時間ほど遅れるよ。  
 A：わかった。じゃあ、先に 食べる／食べている よ。

11や12のように、行為自体に一定の継続的意味が含まれ、発話時現在において既に実現している事態が引き続き未来のある時点まで継続されることを表す場合は、圧倒的にテイル形文が選択されるが、13や14のように、発話時点で未実現の事態が未来のある時点までに行われること（結果の状態）を表す場合には、ル形文が選択されやすい。

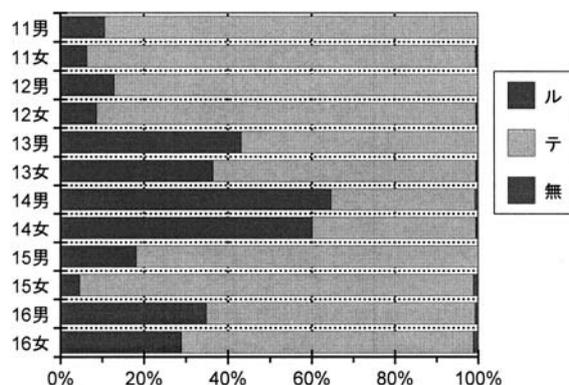
また、同じ「食べる」行為でも、15では食事をするという行為自体に、聞き手がその場に現れるのを待つことが含意されるが、16では聞き手を待つのをやめて、別行動を取ることを意味する。このような場合は明らかにル形文の選択率が上がる。この傾向は特に女性のル形文の選択率（12の場合は約5%、13の場合は約30%）の顕著な差となって現れる。

発話状況における当該の行為が、引き続き継続的に行われるものであるか、新たに実現するものであるかという違いに応じ、同じ述語動詞でもル形文とテイル形文の選択率に差異が生じていることが明らかになった。

表5 行為の既実現性と未実現性

	ル	テ	無
11 男	14	118	0
11 女	11	161	1
12 男	17	115	0
12 女	15	157	1
13 男	57	75	0
13 女	63	109	1
14 男	86	46	1
14 女	104	68	1
15 男	24	108	0
15 女	8	163	2
16 男	46	85	1
16 女	50	121	2

グラフ5



4. 1. 3 継続性を表す共起形式

次に、継続性を表す共起形式の有無によって、ル形文とテイル形文の選択率に差が出るかどうかを見るため、述語動詞「待つ」について下接する終助詞などの文末形式のみを変えて以下の質問を行った。

【調査票：項目例5】

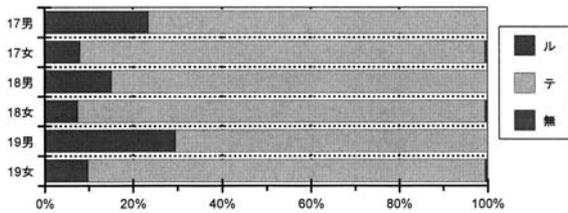
- 17 AとBがハイキングで道に迷った。Aは足が痛むというので、Bが先に行って道を確認してくるようになった。  
 B：じゃ、行ってくる。  
 A：うん。ここで 待つ／待っている よ。
- 18 (同じ場面で「から」がつく場合)  
 B：じゃ、行ってくる。  
 A：うん。ここで 待つ／待っている から。
- 19 (同じ場面で「ね」がつく場合)  
 B：じゃ、行ってくる。  
 A：うん。ここで 待つ／待っている ね。

どの場合も男性のル形文選択率は女性の二倍から三倍の高率である。また、男女ともに「から」が付加する場合はテイル形文の選択率が最も高い。「から」で後続する後件を暗示させる文脈は、継続性を焦点化させやすく、テイル形文の選択に有利に働くと考えられる。しかし、男性と比較して、女性は付加する文末形

表6 文末共起形式

	ル	テ	無
17男	31	101	0
17女	14	158	1
18男	20	112	0
18女	13	159	1
19男	39	93	0
19女	17	155	1

グラフ6



式の種類による揺れはあまり見られないようである。

#### 4. 2. アスペクト的要因に従わない場合

以上、場面的に継続性を表す場合や、継続性を焦点化する文末形式が共起する場合には、テイル形文の選択率が上がることが確認されたが、次のケースは、明らかに、そのようなアスペクト的要因以外の何らかの要因が、ル形文とテイル形文の選択率に関与していると思われる場合である。

##### 【調査票：項目例6】

20 部屋にAとBがいて、Aは出かけようとしている。

A：じゃあ、行くね。

B：僕はここで {待つ/待っている} よ。

21 部屋にA（先輩）とB（後輩）がいて、A（先輩）は出かけようとしている。

A：じゃあ、行くね。

B：僕はここで {待ちます/待っています}。

22 部屋でBがAを待っている。そこへAが入ってくる。

A：ごめん。もう少し時間がかかりそうなんだけど…。

B：いいよ。僕はずっと君のことを {待つ/待っている} よ。

23 部屋でB（学生）がA（先生）を待っている。そこへA（先生）が入ってくる。

A：ごめん。もう少し時間がかかりそうなんだが…。

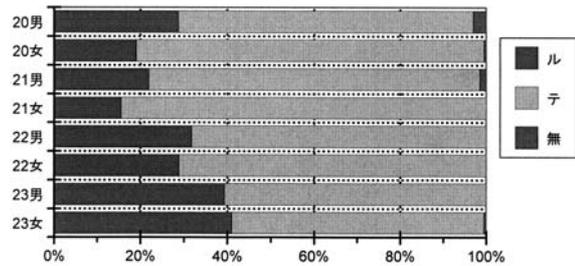
B：はい。僕はずっと {待ちます/待っています} から。どうぞ。

アスペクト的観点からは、継続性を示す「ずっと」の共起がある22と23の方が、そのような共起語句を伴わない20や21の場合よりテイル形文率が高いことが予

表7 アスペクト的要因に従わない場合

	ル	テ	無
20男	38	90	4
20女	33	139	1
21男	29	101	2
21女	27	146	0
22男	42	90	0
22女	50	123	0
23男	52	80	0
23女	71	101	1

グラフ7



想されるが、結果は逆である。また23は文末形式「から」が共起しており、4.1.3で得られた結果からは、22の「よ」共起の場合よりテイル形文率が高いはずであるが、これも逆の結果になっている。純粋なアスペクト的要因以外の何らかの要因が、継続性を明示する「ずっと」や「から」などの共起形式の有無と比較して、ル形文とテイル形文の選択率に、より大きな影響を与えている。

20のように待遇的に無標の相手と、21のように丁寧語の必要な先輩とでは、男女ともに先輩の場合に若干テイル形文の選択率が上がる。しかし、23の先生の場合には、逆に、22のような無標の相手よりもテイル形文の選択率が下がる。発話者と聞き手（同時にこの場合は行為の受け手でもある）の上下関係は、ル形文とテイル形文の選択率に影響するようであるが、単純に一方的に対応するものではないようである。

では、具体的にどのような状況的要因がル形文とテイル形文の選択率に影響しているのか、次節では、考え得る一つの要因として、再び回答者の男女別の差異に注目しつつ考察を行う。

#### 4. 3. 男女の選択率が逆転する場合

今まで示してきたほぼすべてのケースにおいて、女性のテイル形文選択率は、男性より高い傾向を示したが、以下の24から29のような場面では、女性のテイル形文選択率が男性より低くなっている。

##### 【調査票：項目例7】

24 A：明日の午前中、電話してもいい？

B：明日はお昼まで {寝る/寝ている} から午後にしてよ。

25 A：宅急便のお届けは、明日の午前中でよろし

- いでしょうか？
- B：明日はお昼まで 寝ます／寝ています ので 午後をお願いします。
- 26 A（先生）：明日の一日終了後の休み時間に、研究室まで来てください。
- B（学生）：明日はお昼まで 寝ます／寝ています ので 午後にして頂けないでしょうか？
- 27 Aがグラウンドでランニングをしていると、Bが通りかかって声を掛ける。
- B：後で、一緒に焼き肉食べに行かない？ これからちょっと図書館に行ってくるけど。
- A：いいよ。終わったら声掛けてよ。僕はもう少し 走る／走っている から。
- 28 AとBと一緒にランニングをしている。公園まで来たところでAがばててしまった。
- A：ごめん。ここでしばらく 休む／休んでいる よ。先に行行って。
- 29 AとBがスキーに来ている。午後、ペンションに戻ってきた。
- A：ああ、疲れた。夕飯まで 昼寝する／昼寝している よ。お風呂入ってきたら？

24, 25, 26の「寝る」は、「待つ」と同様、動詞の意味自体に一定の継続の意味を含んでいるが、この場合の「寝る」は、聞き手の予定の変更を要求し、聞き手を待たせることを意味する。すなわち、当該の行為が発話者側の都合でなされ、聞き手はそれにより何らかの負担を被る場合である。更に、24のように聞き手に対する遠慮のいらぬ場面と、25, 26のように聞き手に対する配慮が必要な場面では、4.2で観察された傾向と同様に、丁寧体を用いるべき場合にテイル形文率が高くなり、逆に聞き手が明確な目上である場合には低くなる。

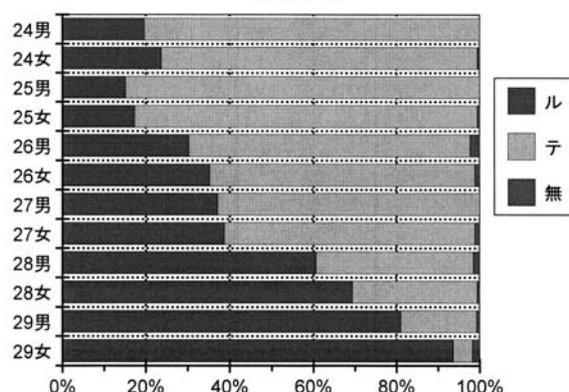
また、男女ともに、特にテイル形文率の低い28と29では「しばらく」や「夕飯まで」という継続性を明示する共起語句があるのにも関わらず、ル形文の方がはるかに高い比率で選択されている。この点も、4.2で観察された傾向と同様であり、やはり、アスペクト性という文法的要因よりも、発話の場における発話者と聞き手と行為の関係という状況的要因の方が上位に位置づけられていると見る事が出来る。

28と29は、発話者と聞き手が、ともに行動する事が期待される場面であるにもかかわらず、発話者側の事情により一時的に聞き手と別行動を取ることを表明する場合である。このような場合には、圧倒的にル形文の選択率が高くなる。しかし、同じように、別行動を取ることを表明する場合でも、27では聞き手側の事情によるものであり、話し手が「走る」ことは、同時に、図書館で所用を済ませている聞き手を待つことを含意する。このような場合にはテイル形文の選択率が高く

表8 男女の比率が逆転する場合

	ル	テ	無
24 男	26	106	0
24 女	41	131	1
25 男	20	112	0
25 女	30	142	1
26 男	40	89	3
26 女	61	110	2
27 男	49	83	0
27 女	67	104	2
28 男	80	50	2
28 女	120	52	1
29 男	107	24	1
29 女	162	8	3

グラフ8



なる。

つまり、発話者が、自分の都合で聞き手に何らかの負担を生じさせる行為を行うことを表明する場合にはル形文が選択され、逆に、聞き手の都合で発話者が聞き手と同調的な行為を行うことを表明する場合にはテイル形文が選択される傾向があると言える。

更に、女性は男性と比較して、このような状況的要因により敏感に反応した結果、ル形文とテイル形文の選択率の逆転現象が引き起こされたのではないかという推論が成り立つ。

本稿冒頭のテイル形文は、場面状況的には、発話者が聞き手側の都合に合わせる行動を表明する典型的場面である。そのため、特に女性を中心として、圧倒的多数が未来時の解釈を支持する結果になったものと考えられるのである。

## 5. おわりに—まとめと今後の課題—

本稿で分析してきたことを以下にまとめる。

テイル形文は、ル形文との対立関係において、未来のある時点における行為の継続の解釈や、結果の状態を表す未来パーフェクト的な解釈が成り立つ場合には未来時を表す。

未来時を表す場合、ル形・テイル形それぞれの持つアスペクト的意味特徴からの拡張として、ル形文は発

話者と聞き手が別行動を取る場合、テイル形文は発話者と聞き手が行動をとともにする場合に選択されるといふ用法上の棲み分けが存在する。また、行動をとともにする場合に、発話者の行為が、発話者側の都合で、聞き手を巻き込む形でなされる場合にはル形文が選択され、聞き手側の都合に発話者が合わせる形でなされる場合にはテイル形文が選択される、という場面的状況に応じた使い分けが見られる。

未来時を表すテイル形文の解釈と使用には、このような、当該の行為における発話者と聞き手との関係という状況的要因が、時に、継続性を表す「ずっと」のような共起語句の有無という、純粋にアスペクト的な文法要因をしのぐ程の大きな影響を与えている。

また、女性は男性よりこのような状況的要因に敏感に反応する傾向が見受けられる。

冒頭のテイル形文の解釈に見られる男女差は、換言すれば、ル形文との対立関係にあるテイル形文を、実際の対話の場においてどのように運用するかという言語運用における姿勢の差が、性別による微妙な差異という結果で数値に反映されたものと見ることが可能であろう。

今回の調査では、男女の差異が僅差である項目も多いが、言葉遣いの男女差が比較的少ないとされる若年層(学部学生)を対象とした調査であること、アンケートの回答例が主として男性のセリフとして提示されたこと等を考慮すると、実際の男女差は、本稿で得られた結果よりも大きいことが推測される。また、回答の選択肢を示す際、常にル形文、及び現在時の解釈の選択肢を先に提示していたことが影響していた可能性を考えるならば、テイル形文及び未来時の解釈の選択率は、実際には、より高くなる可能性がある。

発話者と聞き手との上下関係に関して見られた揺れも、ル形文とテイル形文が、実際の言語運用において、純粋なアスペクト性からの拡張を経て、場面状況に応じて変容していった結果として位置づけられるのではないかと考えているが、この点については現象の指摘にとどめ、検証の詳細は今後の課題としたい。

本稿では、対話の場における発話者と聞き手と当該の行為との関係が、テイル形のような文法形式の、実際の文における解釈と使用に影響を与えていることを明らかにし、このような視点からのアプローチの可能性と必要性を提起した。

今回は調査対象が限られた例文にとどまり、あくまでも問題提起の段階に過ぎない。今後、アスペクト的に、より多様なタイプの動詞述語を対象として調査を進め、動詞の分類を踏まえた上での更なる一般化を図る必要がある。また、発話現場における場面的状況については、男女差以外の要因についても複眼的に考察を行う必要がある。今後の課題としたい。

## 注

1. 山岡(2000)では、非過去時制辞が形態として「現在、未来、超時」の三種類の時制意味を表すことは認めているが、「文の時制意味が同じ述語で現在と未来とに分かれることはない」とし、状態動詞の非過去述語形「i-ru」が現れる文の時制意味は「現在」のみ、テイル形が付加する場合は「現在」と「超時」のみであるとする。(p.15)

非過去の述語と文時制意味の関係

述語の種類	非過去述語の例	文の時制意味
状態動詞 i-	i-ru	現在
感情表出動詞	omow-u	現在
状態動詞 ar-	ar-u	現在、超時
判定詞-de-ar-, -da	sizuka-de-ar-u	現在、超時
動詞+状態性接辞-tei-	tat-tei-ru	現在、超時
感情形容詞	ita-i	現在、超時
属性形容詞	ooki-i	現在、超時
動詞+アスペクト接辞	oti-tesimaw-u	未来
意志動詞	tabe-ru	未来、超時
事象動詞	oti-ru	未来、超時
可能動詞	oyog-e-ru	超時
属性動詞	yakudat-u	超時
所要動詞	yoo-su-ru	超時
価値動詞	atai-su-ru	超時
関係動詞	tigaw-u	超時

そして、動詞の「ル形言い切り」が〈意志表出〉の文機能を発生させる命題内容条件として、以下のように、テイル形が付加する場合を除外している。(p.91)

〈意志表出〉の命題内容条件 (B)
①述語が意志動詞であること
②主語が第1人称動作主格であること
③非過去時制辞-ru*を接続すること
※否定意志表出の場合、否定辞-ana-+非過去時制辞-i
④モダリティ付加辞を接続しないこと
⑤アスペクト接辞-tei-を接続しないこと

山岡(2000)での「文機能」とは、「語用論的条件ぬきの文としての機能」(p.2)と定義されており、〈文機能〉と《発話機能》を、Searleの発話行為論(speech act theory)を受けて以下のように規定している。(p.69)

Searle	適切性条件	本研究
(三条件一括で)	命題内容条件	〈文機能〉
発話内行為	準備条件=語用論的条件	《発話機能》
	誠実性条件	【発話内行為】

2. 動詞言い切り文の「意志表出」の機能について、宮崎・安達・野田・高梨(2002)では、聞き手に対する伝達態度の違いから「意志の宣言」と「決意の確認」とに下位分類している。そして、次のような例は、話し手の未実現の意志的な行為を表しているが、あくまで話し手の予定を伝達しているもので、意志としての機能を獲得しているとは言えないように思われる、と述べている。(p.39)

「これから何か予定でもありますか？」

「いや、もう帰ります」

「どちらへ？」

「京都の美花のマンションです」

(宮本輝『焚火の終わり(下)』p.49)

山岡(2000)ではこれらを区別していない。しかし、「意志表出」機能の定義をどう規定するかという立場の相違に関わらず、これらの文の時制意味を発話時現在ではなく未来時として解釈する点では両者は共通している。

山岡(2000)の主張の特徴は、テイル形の付加した動詞言い切り形の文に、原則として未来時の解釈を排除する、という制限を課している点にある。

3. テイル形文と同様に、未来時の意味が排除されている状態動詞「いる」のケースでも、例えば「僕はずっとここにいるよ」という文が発話時現在の状態描写と解釈されるためには、聞き手の目が不自由で話し手の姿が見えない場合、あるいは、電話による会話中に長く沈黙していた場合など、むしろこちらの方に、聞き手の存在が対話の場の情報の中に含まれない、という特別な語用論的条件が必要となる。
4. 出身地の内訳を県名五十音順により以下に示す。  
 男性：愛知104, 茨城1, 大阪2, 鹿児島1, 岐阜5,  
 熊本1, 佐賀1, 静岡2, 鳥取1, 福井1, 福島1,  
 三重4, 山梨2, 無記入6  
 女性：愛知119, 岡山2, 岐阜7, 熊本1, 滋賀3, 静岡4,  
 鳥根2, 千葉2, 栃木1, 富山5, 長崎2, 長野2,  
 兵庫2, 広島3, 福井3, 福岡2, 三重8, 宮崎1,  
 山形1, 無記入3
5. 男性のセリフ「僕はずっと君のことを待っているよ」に相当する女性のセリフとして、「私はずっとあなたのことを待っているよ」とすると、気軽な友達に対する発話となり、また「私はずっとあなたのことを待っていますよ」では、年輩の

女性の、同等あるいは目下の者への発話が想起され、どちらも位相的にはふさわしくないとされたため、アンケートとしてはこのような例文を採用した。

## 主要参考文献

- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 杉村泰(2005)「文の正しさとは何か」『日本語学』24-9, 56-64, 明治書院
- 鈴木重幸(1979)「現代日本語の動詞のテンス—終止的な述語につかわれた完成相の叙述法断定のばあい—」『言語の研究』, 5-59, むぎ書房
- 高橋太郎(1994)『動詞の研究—動詞の動詞らしさの発展と消失—』むぎ書房
- 土岐留美江(1999)「現代韻文資料における日本語動詞基本形のテンス」『国語国文』68-6(778), 35-51, 京都大学文学部国語学国文学研究室
- 丹羽哲也(1996)「ル形とタ形のアスペクトとテンス—独立文と連体節—」『人文研究』48-10, 23-60, 大阪市立大学文学部
- 野村剛史(2003)「存在の様態—シテイルについて—」『国語国文』72-8(828), 1-20, 京都大学文学部国語学国文学研究室
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 山岡政紀(2000)『日本語の述語と文機能』くろしお出版  
 (平成18年8月24日受理)

